

(24) 以下の通り訂正いたします。

P446 共同発表者削除

誤

206) 産後1ヶ月の初産婦の育児不安への対処方法と産後支援のあり方について ―育児日記による内容分析から―

○山城 歩¹, 小八重佑果², 下地清香³, 我如古愛花⁴, 島田友子⁵

¹三菱京都病院, ²九州医療センター, ³浦添総合病院, ⁴琉球大学附属病院, ⁵名桜大学

【目的】

産後に活用されている育児日記から初産婦の不安の要因とその対処方法を読み取り, 初産婦が必要としている支援を明らかにして支援のあり方について検討する。

【方法】

1. 研究対象: 産後1ヶ月間をA県で過ごし, 研究同意の得られた施設において1ヶ月健診を受ける初産婦6名。2. 調査期間: 平成27年7月～9月。3. データ収集方法: 1ヶ月健診時に育児日記を写させていただいた。4. 研究方法: 1ヶ月健診でよく聞かれる心配事を参考に, 育児日記の記載内容から育児不安の内容と対処方法を抽出し, 内容分析を行った。5. 倫理的配慮: 対象者に研究の趣旨を口頭と書面にて説明し, 同意書にサインをもらい同意を得た。育児日記は毎日書く必要はなく, 研究への参加は自由意志であり, 拒否しても不利益を受けないことを説明した。なお, B大学看護学科倫理審査委員会にて承認を得た。

【結果】

研究参加者の年齢は22～38歳(平均30.7歳)であった。産褥1ヶ月時点の育児日記を書いた感想では, 「書くことで, 状況が分かりやすかった」などポジティブな意見が得られた。育児日記の平均記入日数は19.3日であり, 母親の育児不安や困ったことに関する記述が127件抽出され, 1日平均4.1件の不安を抱えていた。また, 対処行動に関する記述は86件抽出され, 1日平均2.8件であった。不安の内容を9項目に分類して不安の経過を見ると, 一番多い分類項目は「生活」で39件(30.7%), ついで「哺乳」20件(15.7%)という結果であった。抽出した不安の表現数を割合の高い「哺乳」「睡眠」「排泄」の3項目に着目し, 産褥日数別でみると, 哺乳は1ヶ月を通して不安に思っているのに対し, 排泄, 睡眠に関しては, 2週目以降から継続して不安の表出がされていると認められた。母親が抱く育児不安に関する記述から127記録単位, 94コード, 28サブカテゴリーが得られ, [睡眠・ぐずり・泣きについての困惑]などの10カテゴリーが抽出された。母親が育児不安時に行った対処方法は, 記述から86記録単位, 53コード, 26サブカテゴリーが得られ[ソーシャルサポートを活用する]などの8カテゴリーが抽出された。

【考察】

1. 育児日記を書くことで児の生活リズムが把握できるなどのメリットを見出すことができ, 育児日記を書くことの有効性が示唆された。2. 産褥日数別に見た不安の経過(3項目)の結果から, 不安要因によって表出する不安の時期が異なることが示唆され, この時期の医療者からの支援方法の検討が望まれる。3. 対処行動に関する記述では[ソーシャルサポートを活用する]ことが多く, 「検査日の外来で助産師に相談しよう」など助産師からの助言を期待していたことが認められた。

正

206) 産後1ヶ月の初産婦の育児不安への対処方法と産後支援のあり方について ―育児日記による内容分析から―

○山城 歩¹, 下地清香², 我如古愛花³, 島田友子⁴

¹三菱京都病院, ²浦添総合病院, ³琉球大学附属病院, ⁴名桜大学

【目的】

産後に活用されている育児日記から初産婦の不安の要因とその対処方法を読み取り, 初産婦が必要としている支援を明らかにして支援のあり方について検討する。

【方法】

1. 研究対象: 産後1ヶ月間をA県で過ごし, 研究同意の得られた施設において1ヶ月健診を受ける初産婦6名。2. 調査期間: 平成27年7月～9月。3. データ収集方法: 1ヶ月健診時に育児日記を写させていただいた。4. 研究方法: 1ヶ月健診でよく聞かれる心配事を参考に, 育児日記の記載内容から育児不安の内容と対処方法を抽出し, 内容分析を行った。5. 倫理的配慮: 対象者に研究の趣旨を口頭と書面にて説明し, 同意書にサインをもらい同意を得た。育児日記は毎日書く必要はなく, 研究への参加は自由意志であり, 拒否しても不利益を受けないことを説明した。なお, B大学看護学科倫理審査委員会にて承認を得た。

【結果】

研究参加者の年齢は22～38歳(平均30.7歳)であった。産褥1ヶ月時点の育児日記を書いた感想では, 「書くことで, 状況が分かりやすかった」などポジティブな意見が得られた。育児日記の平均記入日数は19.3日であり, 母親の育児不安や困ったことに関する記述が127件抽出され, 1日平均4.1件の不安を抱えていた。また, 対処行動に関する記述は86件抽出され, 1日平均2.8件であった。不安の内容を9項目に分類して不安の経過を見ると, 一番多い分類項目は「生活」で39件(30.7%), ついで「哺乳」20件(15.7%)という結果であった。抽出した不安の表現数を割合の高い「哺乳」「睡眠」「排泄」の3項目に着目し, 産褥日数別でみると, 哺乳は1ヶ月を通して不安に思っているのに対し, 排泄, 睡眠に関しては, 2週目以降から継続して不安の表出がされていると認められた。母親が抱く育児不安に関する記述から127記録単位, 94コード, 28サブカテゴリーが得られ, [睡眠・ぐずり・泣きについての困惑]などの10カテゴリーが抽出された。母親が育児不安時に行った対処方法は, 記述から86記録単位, 53コード, 26サブカテゴリーが得られ[ソーシャルサポートを活用する]などの8カテゴリーが抽出された。

【考察】

1. 育児日記を書くことで児の生活リズムが把握できるなどのメリットを見出すことができ, 育児日記を書くことの有効性が示唆された。2. 産褥日数別に見た不安の経過(3項目)の結果から, 不安要因によって表出する不安の時期が異なることが示唆され, この時期の医療者からの支援方法の検討が望まれる。3. 対処行動に関する記述では[ソーシャルサポートを活用する]ことが多く, 「検査日の外来で助産師に相談しよう」など助産師からの助言を期待していたことが認められた。